

報 会

兵 小 長

第 152 号

令和 2 年 2 月 25 日
兵 庫 県
小 学 校 長 会

新しい時代へ
リボーン兵小長

兵庫県小学校長会長 前川 義 弘

梅の花が各地で開花を迎えようとして
いるこの時期、令和元年度の兵庫
県小学校長会の活動もいよいよまと
めの時期となりました。

各校におかれましても学習指導要領
全面実施に向けて、新しい教育計画作
成等の最終段階の時期であると思いま
す。ここで全国連合小学校長会より発
信された全面実施目前のチェックポイ
ントをいくつか提示します。

○学校の教育目標の見直し
各校の教育目標を明確にするととも
に、教育課程の編成について基本方
針が家庭や地域とも共有されるよう
努める。

○授業時間確保の方策
学校行事の時数見直しや外国語科・
外国語活動の指導計画。

○新しい評価への対応
三つの観点にもとづく、通知表の改
訂及び指導要録とのデータ連動。

○学校における働き方改革
教員が子どもたちと向き合う時間・
授業の準備といった本来業務の時間
を確保し、教育の質の向上を目指す。
各校において、新しい学習指導要領
が円滑に実施されますよう最終確認を
お願いいたします。

長がの主な活動と成果を振り返りたいと

思います。

まず、要望活動です。各地区・各支
部の意見を集約・整理し、「教員の負
担軽減につながる人的措置」「業務改
善に結びつく環境改善」「教育課程推
進に伴う施策」等、内容の重点化を図
り、八月に県教委に提案しました。十
月には、回答懇談会を行いました。兵
小長第一五一号に詳細を掲載していま
すが、今後も学校現場の切実な声とし
て継続性を持って県教委へ要望するこ
とが、兵庫の小学校教育の発展に寄与
することを確認できました。

次に、兵小長研究大会です。十月九
日に豊岡市にて但馬大会を、十月二十
三日に洲本市にて淡路大会を、両大会
ともに多くの会員の皆様に参加いた
さ盛大に開催できました。

但馬大会では、東井浴子氏に、東井
義雄先生の残された言葉をご紹介いた
さしながら、教育における「不易」を
感じるご講演をいただきました。淡路
大会では、中川一史氏による「プログ
ラム教育の進め方」と題したご講演
をいただきました。喫緊の課題をご提示
いただきました。プログラム教育は
まさに「流行」であり、二つの講演会
で「不易流行」を考えるよい機会とな
りました。

また、分科会の小グループの協議で

は、身を乗り出して発言される姿や深
くうなずきながら参加されている姿に、
本研究大会が、小学校教育の更なる充
実・発展に寄与できたことを確信しま
した。これらの成果は、但馬地区・淡
路地区の実行委員の皆様の用意周到な
準備とおもてなしの心のお陰です。心
よりお礼を申し上げます。

最後は兵小長の会則改正についてで
す。兵小長の長い歴史の中で、今回の
ように大幅な会則改正を行ったのは初
めであると思います。

それは、時代に合った校長会組織へ
の改革を行う必要があったからです。
その主なものの第一は、校長の働き方
改革として、会議の精選を進めるため
です。第二は、急速な教育諸改革に素
早く対応できる校長会組織への変更で
す。例えば、決議機関を総会から新た
に設ける代表者会にすることで機動力
を高めることができました。第三は、会
員の減少等に伴う負担金の内訳を見直
す時期が近い将来にやってくるであろ
う点です。また、現状の活動に合った

「高い志を持った研究・修養組織」「県
教育委員会と連携して活動している組
織」「関係機関や全連小・近小協とも
連携している組織」である等の趣旨文
言も加筆しました。

「臨時協議事項」として、突然に全
会員の皆様へ投票を呼び掛けたにもか
かわらず、多くの方々の賛同を得て、
会則改正ができたこと厚くお礼申し上
げます。これらの改正により、兵庫県
教育の振興のために、これからの時代
に於いて柔軟に対応することができ
ます。また、五月の総会で申し上げ
たように「リボーン兵小長」となり、次
年度へバトンタッチできると思います。

最後にになりましたが、県下八地区四
十六支部七百六十二名の会員の皆様が、
「兵庫は一つ」の合言葉のもと、一丸
となつてご支援・ご協力いただいたこ
とに、心より感謝を申し上げます。

(神戸市立真野小学校長)

兵小長活動記録(抄)

庶務部長 池 田 豊 樹

- 四・二六 新旧役員・理事・地区長会①
- 支部長・評議員合同会議
- 理事・地区長会②

- 五・九 要望書作成委員会①

- 一〇 近小協理事会①(大阪)
- 一六 総会・研修会(阪神)

- 二二 全連小総会・研修会(東京)
- 六・一三 あり方検討委員会①
- 要望書作成委員会②

- 二七・二八 理事・地区長会③(西播磨)
- 七・四 私学連合会との連絡協議会
- 一八 理事・地区長会④

- 二六 要望書作成委員会③
- 二二 近小協理事会②(大阪)
- 八・一九 理事・地区長会⑤

- 二二 対県教委要望書説明会
- 九・四 あり方検討委員会②
- 十・三 あり方検討委員会③

- 九 研究大会(但馬)
- 十七・十八 全連小全国大会(秋田)
- 二三 研究大会(淡路)

- 二九 対県教委要望回答懇談会
- 理事・地区長会⑥
- 十一・二三 近小協理事会③(大阪)

- 一・一四 活動方針案検討委員会①
- 二七 活動方針案検討委員会②
- 三一 理事・地区長会⑦

- 二・一八 近小協理事会④(京都)
- 二一 理事・地区長会⑧

(神戸市立丸山ひばり小学校長)

活動報告

この一年をふりかえって

経営委員会の活動報告

経営委員長 松田慶次

経営委員会は、五月の本部合同委員会から始まり、年間活動計画等を協議し、研究大会の充実に向け、取組を進めて参りました。兵小長の活動の柱である研究大会を但馬大会は豊岡市で、淡路大会は洲本市で開催し、成功裏に納めることができました。

大会主題「『ふるさと・絆・支え合い』夢をもち未来を拓くたくましい子どもの育成」のもと、講演会、分科会を開催いたしました。各分科会では、実践報告に加え、グループによる討議を行い、交流を深めました。熱心な研究協議がなされたことは、今後の学校経営の更なる充実につながるものと確信しております。

研究大会開催にあたり、運営にご尽力いただきました両大会の実行委員会の皆様方をはじめ、本大会をご指導いただきました兵庫県教育委員会並びに関係各市町・教育委員会の皆様方からより感謝する次第であります。

来年度の開催に向け、新学習指導要領の目指す学校づくりのため、研究主題をはじめ研究領域、経営紀要等について検討しているところです。今後の、理事・地区長会を経て、各支部にお知らせいたします。

令和二年度の研究大会は、西播磨大会（赤穂市）が十月二十一日、神戸大会が十月十四日に開催予定です。

(猪名川町立楊津小学校校長)

人給委員会の活動報告

人給委員長 井上英樹

人給委員会は、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、働きがいのある教育現場にしていくために全連小、近小協と連携を図りながら、各種調査・研究活動と人事給与等に関する研修活動に取り組んでまいりました。

一 調査・研究活動
会員の皆様の協力のもと、六月と十月の二回の調査を実施し、教職員の処遇や学校経営の状況を調査し、県教委への要望活動につなげました。また、近小協調査研究部会において、人事給与等に関する情報交流に努め、「調査研究第五十八集」の編集を行いました。さらに、全連小対策担当者連絡協議会では、学校における働き方改革の進捗状況や専科等の教員の配置状況について、調査活動の結果をもとに現状や課題を交流し、協議を深めました。

二 研修活動
県教委のご協力を得て、八月に「給与の動向」、一月に「退職手当・年金等の状況」を中心に研修会を開催しました。多くの校長先生方に参加していただき、有意義な研修活動ができました。

今後、管理職をふくむすべての教職員の職責に見合った給与体系への改善、次代を担う管理職候補者の育成や誰もが管理職を目指しやすい環境整備などを目標に、さらに人給委員会の活動を充実させていく必要があります。

(姫路市立高浜小学校校長)

調査広報委員会の活動報告

調査広報委員長 末澤徹治

調査広報委員会では、今年度初めて、県独自のアンケート調査を実施しました。各校長先生方には、大変お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。お陰をもちまして、アンケート結果を県教育委員会への要望に反映させることができました。

一 兵小長関係
① アンケートを実施（六月）し、対県要望書及び資料の作成に当たって、要望書作成委員会と協力し、会員の要望を反映するよう努めました。

② 会報「兵小長」第一五〇号・第一五一号・第一五二号を発行し、会員・支部・地区の声を反映しながら、兵小長の活動状況を知らせ、会員相互の連携強化に努めました。

③ 兵小長ホームページを維持・更新し、兵小長や全連小の会報等をアップしました。
④ 転学児童に関する情報交換を行いました。

二 全連小関係
① 「小学校時報」四月・六月・八月・九月・一二月号、「教育研究シリーズ」第五八集、「全国特色のある研究校便覧」令和二・三年度版への寄稿を行いました。

(加古川市立志方小学校校長)

会員の声
よりよい人間関係を育むために

神戸 古池 茂

AIの時代が間もなく到来します。私たちが子どもの頃、若手教員であった頃と比べ、めまぐるしく世の中が変容しているのは、誰もが気付いているところです。人と人との関わり方も変わりつつあります。学校でも、子どもたち同士の関わりがずいぶん減ってきており、些細なことから、けんかとなることも多くなっているように感じます。

本校は、児童数九百七十人と大規模の学校です。大規模校であるが故に全校で行う活動の煩雑さから、これまで子どもたち同士で楽しむ活動を敬遠しがちでした。本年度より、縦割班活動を思い切って進めることにしました。一、六年生が揃った縦割班を全部で三十班作り、児童集会などでその班ごとにゲームをしたり、似顔絵大会をしたりして楽しんでいきます。上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を敬いあこがれの気持ちを高め、よりよい人間関係を築いていくものと思います。

本年度から二年間、国立教育政策研究所より特別活動の研究指定の場をいただきました。学級活動、縦割班活動、委員会活動、クラブ活動の在り方を研究しています。希薄になりがちな子どもたちの人間関係を食い止め、時代が進んでも多様な他者とともにたくましく生き抜くことができる、そんな大人に育ってほしいと願っています。

(神戸市立東舞子小学校校長)

兵 小 長

会員の声

阪神 今北 眞奈美

伝え合い、かかわり合う子どもをめざして

本校では学校教育目標「人間尊重の精神を教育の基礎に据え、ともに生きる豊かな心とたくましく生きる力を持つ子どもを育成」に向けて全教職員が「チーム良元」を合言葉に取り組んでいます。今年度の研究テーマ「伝え合い、かかわり合う子どもをめざして子どもたちの豊かな学び合いを育む授業づくり」のため ①学級づくりは授業づくり ②学びを支える基礎学力の充実 ③学習規律の確立の三つの重点目標の達成に向けて実践を深めてきました。

具体的には小集団活動（ペア学習・班学習）を効果的に取り入れる、全教職員で学習規律の徹底を図るなど、どの学級も落ち着いて授業に取り組む習慣が身につきました。今年度は「一人一研究授業」に全教職員が取り組み、一人必ず一回以上研究授業を行い、指導案の作成から検討、授業後の事後研究会まで全教職員が協力し、共通理解を図りながら研修を推進することができました。基礎学力の充実については、毎週木曜日に「ひまわり教室（算数教室）」を開催し、学年ごとに全教職員が子どもたちの発達段階にあわせて補充学習に取り組んでいます。これからも主体的に学習に取り組む児童の育成に向けて、教職員が一致団結して研究を推進していく所存です。

（宝塚市立良元小学校長）

会員の声

播磨東 岩田 研二

安全・安心の声のもと

最近のニュースでは学校や教育に関する話題が大変多く聞かれるようになりなりました。なかでも子どもたちが被害に及ぶ事件や事故の話題も多く聞かれます。また、いじめ問題などもあり安全・安心の学校を作ることには学校経営の根幹となります。本校の校区は通学路での交通量の多さが大変気にかかる状況です。

本校は加古川市の南西部に位置し、臨海部には大きな工場が立ち並び、物資の輸送に朝早くから大きなトラックが通学路のある道路や交差点を多数通過しています。そのような状況から保護者も危機感を持ち、交通指導員の配置だけでなく、「若宮ふれあい隊」として安全確保のための活動を数年前から始めています。また、地域の方もボランティアとして毎朝、交差点に立ち見守りを続けてくださっています。定期的に通学の様子を見に来て、子どもたちに声をかけてくださる町内会長もいらつしやいます。

開校して三十二年目を迎える本校は当時開校に尽力してくださった方が地域に住まわれており、我が町の学校として愛着を持っていただいていることを強く感じています。今後も登下校だけでなく、安全・安心の学校づくりのために地域の力を借りて取り組んでいきたいと思っています。

（加古川市立若宮小学校長）

会員の声

西播磨 圓井 武

新しい時代に

昭和六十年に発売された肩掛け式のシヨルダーホンは、私たちの教職経験と並行するようにケータイ、そしてスマホへと進化しました。利便性は言うまでもなく、調べたいことは「ググる（検索する）」と簡単に解決します。これら情報通信をはじめ、IT技術は現在も加速度的に進化しており、この流れは今後も変わらないと思われまます。そんな「令和」という新しい時代を生き、社会を担っていくのが今の子どもたちです。

身の回りの不便や困難は、さらに少なくなっていくのでしょうか。そんな時代だからこそ、安易にマニュアルや機器に頼ってばかりではなく、「まず考え、行動できる人」に成長してほしいと願います。もちろんAIやIT技術等もうまく活用しつつ、自分の頭で考え、相手の立場や考え方をふまえて意見を交わし合い、協力して事に当たれる子どもになってほしいのです。

本校の児童数は八十七名、明るく素直で規範意識も高く、指示されたことはまじめに取り組めます。保護者や地域住民も学校教育活動に大変協力的です。けれども小規模校であるが故に、子どもに対し過干渉になる傾向があることも否めません。「手を差し伸べ過ぎていないか」を慎重に検証しつつ、主体的に考えようとする力や自己表現力の育成に向け、今後も取組を進めてまいります。

（相生市立若狭野小学校長）

会員の声

淡路 近藤 秀宜

プログラミング教育の実施に向けて

新学習指導要領の全面実施に向け、各校ではその準備・研修等に取り組んでいるところかと思えます。本校は、今年度兵庫県版プログラミング教育スタートバック構築に向けた実証研究校の指定を受け、モデルカリキュラム案に基づく授業実践とその成果・課題についての研究を進めてきました。

この研究に取り組むに当たり、まず研究推進教員を中心にして、プログラミング教育が必修化される背景やこの教育が目指す資質・能力等について全校で共通理解を図りました。また、実際にスクラッチを全教員が体験する研修を行いました。その後OJTを活用しながら全学年で一人一授業研究を年間十三回実施し、その内三回は兵教大の森山潤教授のご指導を仰ぎました。

今年度、研修や授業研究等の取組を通して、教員のICT活用能力やプログラミング教育の見識を徐々に高め、学年ごとの指導の系統性を意識したカリキュラムの作成、児童のプログラミング的思考の向上と教科等での学びをより確かなものにするための効果的な指導方法の継続的な研究が必要です。さらに、教員一人一人のスキルアップを図りつつ、児童の主体的な情報活用能力向上を促す取組を進めていきたいと思えます。

（南あわじ市立松帆小学校長）

神戸地区だより

神戸地区長 里 昭 憲

神戸地区小学校長会は、十支部（東灘、灘、中央、兵庫、北、北神、長田、須磨、垂水、西）百六十六校で構成され、神戸市小学校長会として活動しています。

教育内容や社会状況が益々多様化・複雑化する今、より学校運営に寄与する校長会活動とするために、今年度の活動目標を「夢と希望をもち 自ら未来を切り拓く子どもの育成」としました。そして、各支部の活動の充実を図るとともに、新任校長の役割の軽減、

丹波地区だより

丹波地区長 源 浩 貴

丹波地区小学校長会は、丹波市二二校と丹波篠山市十五校の二市三十七校の校長で構成されています。各市では月ごとに校長会を開催し、情報交換をしております。丹波地区としましては、「生きる喜びと夢を持ち 人間性豊かな社会を築き 未来を切り拓く子どもの育成」をスローガンに掲げ、これまで培ってきた強固な団結力を生かし、課題解決に向け取り組みを進めてきました。四月には総会並びに研修会を開催し、研修会の講師には丹波教育事務所長 杉谷 康志氏をお招きし、「管理職に期待すること」という演題で、学校における働き方改革や仕事に

管理経営委員会の再編、神戸小学校長会の規約改正を進めるなど、活動の見直しや組織の再構築も進めてきました。

また、今年度から始まった様々な施策への対応や、教育への信用を揺るがせる事案の発生など、各学校が対応に追われ、他地区のみなさまにはご心配をおかけしましたが、この場をお借りしてお詫びとお礼申し上げます。

来年度の兵小長研究大会神戸大会の開催にあたりましては、「兵庫は一つ」の言葉を大切にし、意義ある研究大会となるよう準備を進めております。みなさまの参加をお待ちしています。

(神戸市立御影小学校長)

地区の動き

中播磨地区だより

中播磨地区長 佐 藤 弘 幸

中播磨地区小学校長会は、一市三町八十一校で構成されています。来年度には、神戸町で統廃合があります。また、姫路市では三校目となる義務教育学校（豊富小中学校）が開校予定です。大規模校から小規模校、都市部や工業・漁業・農業・山間地域など、様々な特色とそれぞれの教育課題を交流し、研究と実践を積み重ねています。

総会・研修会は五月二十一日に姫路市で開催しました。播磨西教育事務所の中田直人所長から、教職員が納得する目標を言葉で伝え、共有化を図り、同じ方向のベクトルで推進していくことが、リーダーの役割であることをこ

編集後記

広報部長 福 井 一 郎

本年度も最終の会報、一五二号を会員の皆様にお届けすることになり、安堵しております。今号では、前川会長、池田庶務部長、そして、三委員会の委員長の皆様が一年を振り返っていただいております。前川会長より「リポーン兵小長」と百五十号に続き、今号でも新学習指導要領全面実施に向けての指針と兵小長の進むべき姿を示していただいたと思います。また、「地区の動き」では、神戸・中播磨・丹波の三地区から記事をいただきました。それぞれの地区における教育課題に対して、どのように取り組んでいこうとしているのかがよく分かりました。そして、

教示いただきました。この他にも、播磨西教育事務所副所長を講師に、二度の役員研修会を実施し、研鑽を深めました。

また、働き方改革を進める中、新学習指導要領の実施に向けて必要な研修には取り組みつつ、通知表の簡素化や役員会の負担軽減などに取り組んでいます。

二月には、「NEXT ONLY ONE 企業」として、はやぶさ2プロジェクトにも関わっておられる佐藤精機株式会社（本社姫路市）の佐藤慎介社長を講師に、新しい課題に立ち向かうスピリットを学び、地区校長会一丸となつての活動を推進していきます。

(姫路市立城陽小学校長)

【会員の声】では、五地区から、学校教育目標の具現化を通じた取組、地域と共に安全・安心の声を響かせ広げていった取組、特別活動を通じた人間関係づくり、プログラミング教育への教育実践、新しい時代を生き抜く子どもたちの実態に即した教育活動について寄稿いただきました。どれも興味深く読ませていただきました。

前川会長が幾度となくお話されておられました「リポーン兵小長」と共に「兵庫は一つ」の合言葉が私たちの方向づけとなり、心一つにして取り組んだ成果であると確信しております。最後になりましたが、お忙しい中、快く執筆を引き受けてくださった皆様にご感謝申し上げます。

(神戸市立高和小学校長)